どうしん夢プロジェクト 広告企画

札幌市

サンタ「おもてなし」

特別プロジェクトチーム発足

専任委員配置で態勢を強化

上田市長「市民の協力期待」

昨年、捜索チームとサンタ捜索に関する協定を結んだ札幌市。画期的な協定として話題になったが、今年の取り組みとして札幌市役所に「サンタおもてなしプロジェクトチーム」を発足させることが明らかになった。道外や海外から訪れる観光客への「おもてなし」活動を推進する札幌市。果たして、サンタにもその心は届くのか。

28日、札幌市上田文雄市長は会見で「サンタおもてなしプロジェクトチーム」を新たに立ち上げることを発表した。メンバー構成は、サンタを信じ、愛する選抜された職員たちと、外部有識者ら合計8名。捜索チームとの特別協定締結から2年目の今年、札幌市はサンタを「おもてなし」する体制を整えることによって、よりサンタが訪れやすい街になることを目指す。

関係者の話によると、同プロジェクトチームは今月上旬にサンタについて学ぶ勉強会を実施。サンタの詳細情報を学ぶのはもちろん、サンタ役を決め「サンタと出会った時、どのようにもてなすか」をロールプレー形式で学ぶ。上田市長は「おもてなしに必要とされるのは相手を知ること。相手が期待していることを上回るような心対ができて、初めて真のおもてなしとなる。相手がサンタになっても同じこと」と、勉強会の重要性を強調。自らも勉強会でサンタ役を務めるという。「札幌市の皆さんのおもてなしにも非常に期待している。サンタを含め札幌を訪れる人へのおもてなしに関心を寄せていただければ」と笑顔で語った。

プロジェクトチームでは、大通公園2丁目で開催中のミュンヘン・クリスマス市を中心に、市内各地でサンタをもてなす準備を進める方針。捜索チームもこの動きに合わせ、第一捜索課を中心に捜索を行う見込み。

市役所の窓をサンタ誘導灯に

札幌市役所の本庁舎では、点灯させる部屋の照明によって、ツリーのシルエットを描くことを計画し、サンタを呼び込む「誘導灯」として機能させることを目指している。捜索チームの技術部開発研究課が札幌市の国際部と協力しミュンヘン・クリスマス市の事業の一つとして行う。まず12月6日に試験点灯を実施予定。トナカイの動きをトナカイレーダーがキャッチした際、誘導灯が点滅するかなど、レーダーとの連動も検証される。



「市をあげてサンタさんを迎えたい」と語る上田市長



特別仕様のマークを掲出する大通公園 2・3 丁目の地下街出入口

今年もマークで歓迎

札幌市は、今年も「サッポロスマイルマーク」を〝サンタ仕様〟とすることを発表した。昨年、協定に基づく活動の第1弾として行われたこの取り組みでは、札幌市のシティープロモート戦略で用いられているマークの「P」の上に、サンタの帽子をかぶせたものをデザインした。このマークにより、市民のサンタ捜索への意思表明を促し、大きな反響を獲得したため今回も継続が決定した。今年は大通公園2・3丁目の地下街出入口階段に掲出されているサッポロスマイルマークを特別仕様に変更し12月25日まで掲出する。

上田市長は「サッポロスマイルは、市民全員が笑顔でおもてなしすることを発信するためのものでもある。おもてなしプロジェクトや本庁舎にツリーのシルエットを描く事業も行うので、サンタが来るはず」と自信をのぞかせた。

捜索チーム

投稿写真募集

わが家のサンタ

捜索チームでは「わが家のサンタさん」としてサンタに扮（ふん）したわが子や家族、ペットの写真を募集。ニックネームと写真のタイトルをメール本文に記入し、写真を添付の上、kokoku3@hokkaido-np.co.jpまたは12月上旬公開のサンタ捜索Web内から応募できる。投稿された写真は同サンタ捜索Webで公開予定。

サンタへ寄せ書き

サンタ宛ポスター掲出

広尾町



ポスターを掲出し「多くのみなさんにサンタへのメッセージを書いてもらえたら」と話す村瀬町長

【帯広】十勝管内・広尾町では、今月28日から同町内のひろおサンタランドと広尾町役場で「サンタへの寄せ書きポスター」を掲出し、来場者や町民に向けサンタへのメッセージを書き込むよう呼び掛けている。

このポスターは、サンタ捜索チームが広尾町へ寄贈。同町はサンタクロースの出身地ノルウエー・オスロ市から国内唯一のサンタランドに認定され30年を迎える。広尾町は2010年の捜索チーム発足から捜査に協力し、同チームとは5年の協力関係にある。サンタランド認定30周年のお祝いと長年の捜査協力への感謝から、今回のポスター寄贈となった。

広尾町の村瀬優町長は「私たちはこれまでサンタさんと皆さんの橋渡し役として、多くの人へサンタメールを発送してきました。今回は逆にサンタさんへメッセージを発信できてうれしい」と喜びを語る。

ポスターは、25日のクリスマス当日まで書き込みが可能。24日にはこのメッセージを読むためにサンタが訪れると期待されていることから、捜索チームは決定的瞬間を押さえるべく捜査員の派遣を決めている。

企画制作／北海道新聞社広告局

この広告企画はお子さまと楽しんでいただくため、夢のある構成となっています。フィクションを多く含みますがご理解、ご了承願います。次回は12月1日朝刊予定

家族で食べたケーキ、光るツリー、枕元のプレゼント。クリスマスの思い出は、いくつになっても消えないもの。そんな忘れられない季節の贈り物として本をお薦めしたい。

「クリスマス・キャロル」などクリスマスゆかりの名作も数多くあるが、ここは少しひねってみて、例えば「赤と緑の装丁がクリスマスらしい」という理由で村上春樹の「ノルウェイの森」を選んでみるのも面白い。相手にとって意外な本との出合いが、忘れられない出合いに変わる可能性もあるのだ。モノであれば壊れてなくなりもするが、本は読んだ人の中で記憶として生き続ける。その記憶がいつかよみがえるかもしれないし、その人の考え方や生き方にまで影響を及ぼすかもしれない。なかなかロマンチックな贈り物ではないだろうか。

本の記憶という贈り物

（C）北海道新聞社 無断転載、複製及び頒布は禁止します。